

# 分野別成果動向一覧 第5章「都市基盤」

## 《施策別成果動向一覧》

節	番号	施策名	成果動向	まちづくり指標の推移						成果指標の推移							
				対基準値			対前年度			対基準値			対前年度				
				改善	横ばい・維持	悪化	改善	横ばい・維持	悪化	改善	横ばい・維持	悪化	比較不可	改善	横ばい・維持	悪化	比較不可
土地開発	29	地域の特性を生かした土地利用を推進する	順調	1	0	0	1	0	0	5	0	0	0	3	2	0	0
道路・交通	30	だれもが安全に安心して通行できる道路をつくる	順調	1	0	0	0	0	1	5	0	0	0	1	3	1	0
	31	快適に移動がしやすい交通環境をつくる	順調	1	0	0	0	0	1	6	0	0	0	4	0	2	0
緑地・公園	32	花と緑の豊かなまちなみをつくる	横ばい	1	0	0	1	0	0	3	0	3	0	2	0	4	0
河川	33	浸水被害がない地域にする	順調	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	2	0	0	0
まちなみ	34	良好な都市景観と快適な住環境をつくる	順調	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	1	0

## 《まちづくり評価委員会の評価》

「都市基盤」分野では、まちづくり指標等の動向から判断して、施策の成果動向は、「順調」が5施策、「横ばい」が1施策となり、分野全体の成果動向は、「順調」であると評価する。

良好な都市環境の整備のため、だれもが安全に安心して通行できるよう、道路や歩道の計画的な整備を進めるとともに、公園や駅周辺の整備においてバリアフリー化にも重点的に取り組む必要がある。

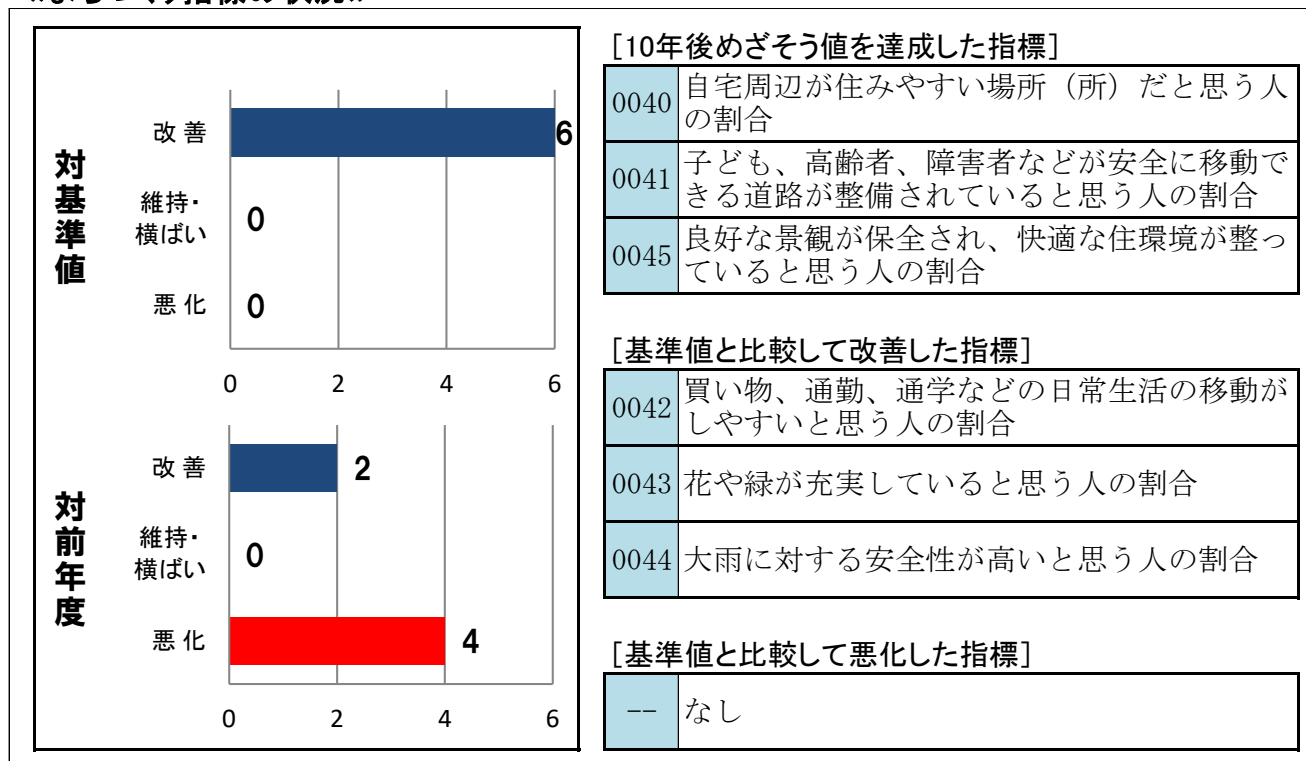
また、公共交通機関の利便性が求められている状況において、広域的な連携の視点も取り入れながら、地域特性の課題に対応した新たな交通手段の導入の検討を進めるなど、電車や循環バスを中心とした複合的な公共交通機関のあり方を検討していく必要がある。

[施策29～31] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調」であると評価する。

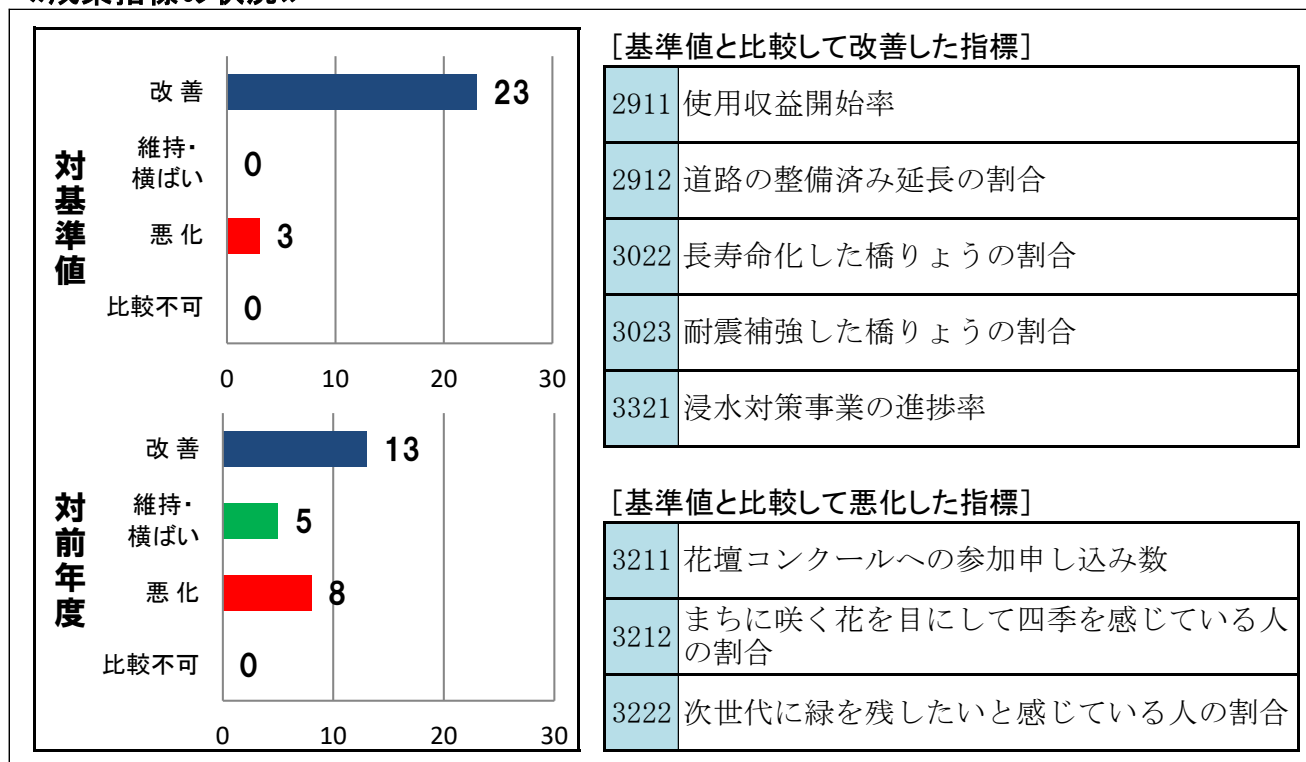
[施策32] まちづくり指標、成果指標の動向から「横ばい」であると評価する。

[施策33・34] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調」であると評価する。

## 《まちづくり指標の状況》



## 《成果指標の状況》



## 《第5章「都市基盤」指標の状況》

**【まちづくり指標】**「自宅周辺が住みやすい場所（所）だと思ふ人の割合」はじめ3指標が10年後めざそう値（R5(2023)）を達成したほか、「買い物、通勤、通学などの日常生活の移動がしやすいと思ふ人の割合」など、基準値と比較して全6指標が改善した。

**【成果指標】**「使用収益開始率」はじめ23指標、分野全体で88.5%が基準値より改善した。また、基準値以下となった指標は、3指標（11.5%）で、前年度より悪化した指標は、8指標（30.8%）となった。

章 05 都市基盤  
節 01 土地開発

理念 活力

施策 29 地域の特性を生かした土地利用を推進する

施策主管課【都市計画課】

### めざすまちの姿

住宅地、農地、商業地、工業地などに地区が分けられ、土地が有効利用されている

### 施策の基本方針（総合計画から抜粋）

住宅地、農地、商業地、工業地など、それぞれの地区特性を生かして、土地の有効利用を図り、調和のとれたまちづくりを進めます。

### 施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	中心市街地を活性化する	150,487	144,850
02	土地を有効活用する	106,410	95,374
03	活気のある地区拠点をつくる	860,720	825,098
施策合計		1,117,617	1,065,322

### まちづくり指標の分析

No	0040	No															
方向性	➔	方向性															
自宅周辺が住みやすい場所（所） だと思う人の割合																	
<table border="1"> <caption>自宅周辺が住みやすい場所（所）だと思う人の割合 [%]</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>割合 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>80.4</td></tr> <tr><td>H26</td><td>82.8</td></tr> <tr><td>H28</td><td>83.1</td></tr> <tr><td>H30</td><td>82.5</td></tr> <tr><td>R02</td><td>85.2</td></tr> <tr><td>R04</td><td>86.4</td></tr> </tbody> </table>				年	割合 [%]	H24	80.4	H26	82.8	H28	83.1	H30	82.5	R02	85.2	R04	86.4
年	割合 [%]																
H24	80.4																
H26	82.8																
H28	83.1																
H30	82.5																
R02	85.2																
R04	86.4																
対基準値：6.0ポイント増 / 基準値からの推移： 10年後めざそう値達成率：130.4% 年齢別：差異有、職業別：差異有、地区別：差異有 要因：土地区画整理事業による都市基盤の整備が順調に進んでいることが影響していると考える。																	

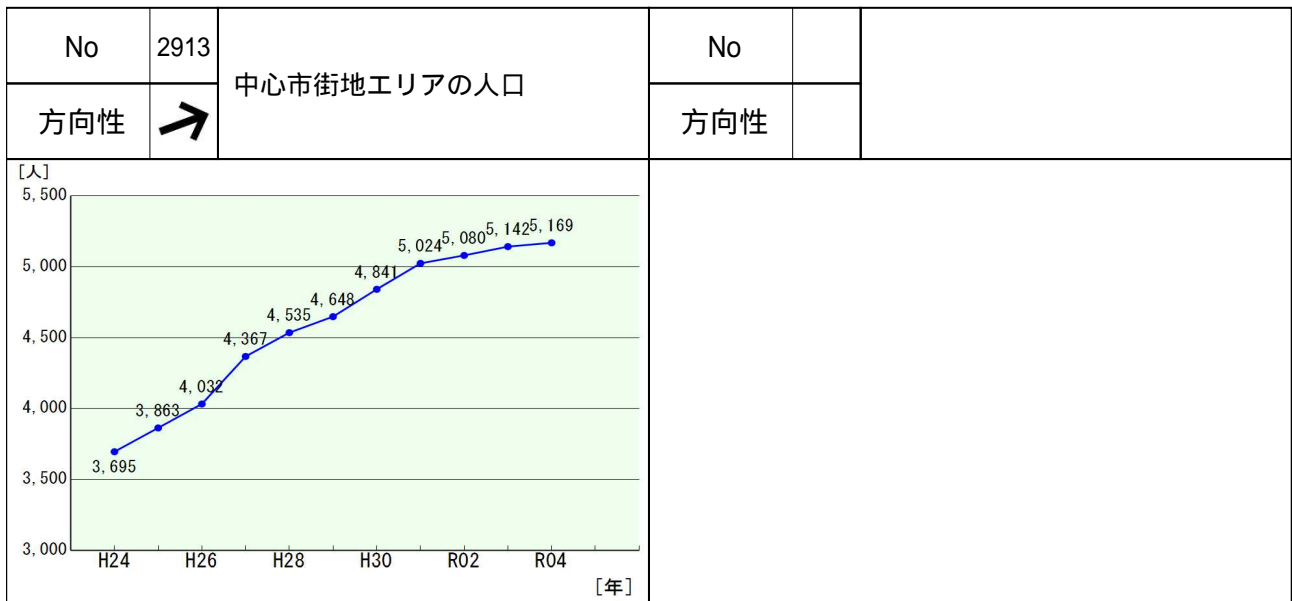
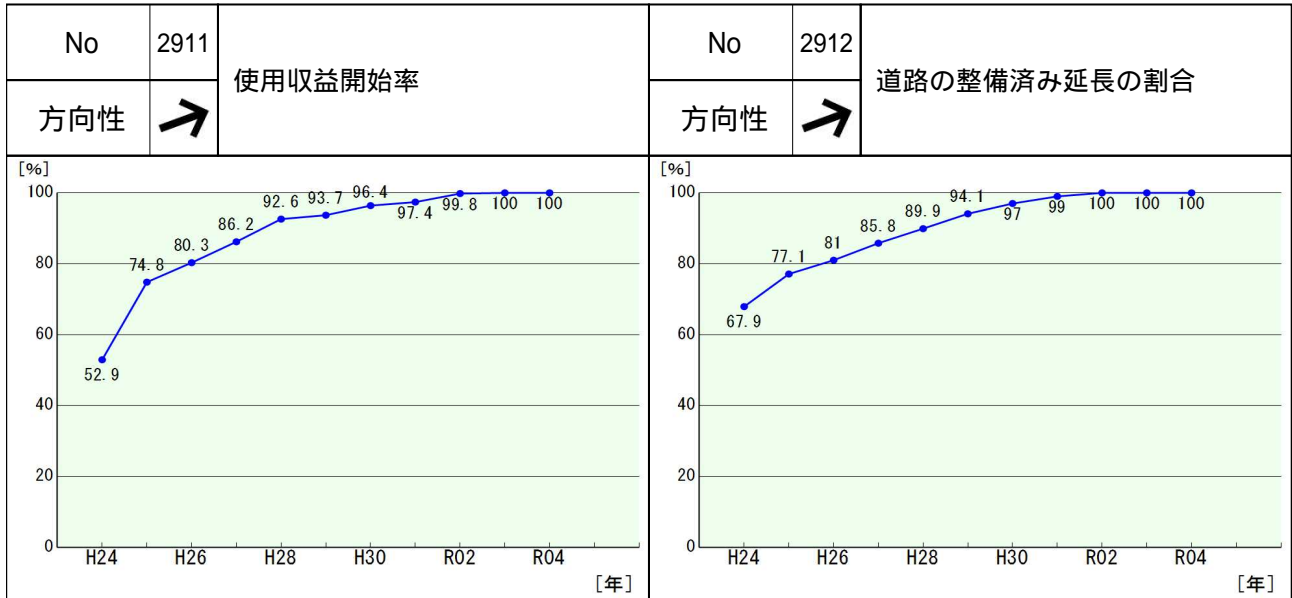
### めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調と評価する。  
 まちづくり指標は、基準値から6.0ポイント向上している。これは市内における道路や公園、土地区画整理事業などの都市基盤の整備が着実に実施され、沿道沿いでは生活サービス施設の立地が進んだためと考える。  
 今後も、将来にわたり持続可能な土地利用を進めるため、鉄道駅周辺では集約型まちづくりを目指すなど、それぞれの地域特性を生かし、市民ニーズの把握に努めながら、調和のとれたまちづくりを推進していく。

施策 29 地域の特性を生かした土地利用を推進する  
 単位施策 01 中心市街地を活性化する

単位施策主管課【中心街整備課】

成果指標の推移



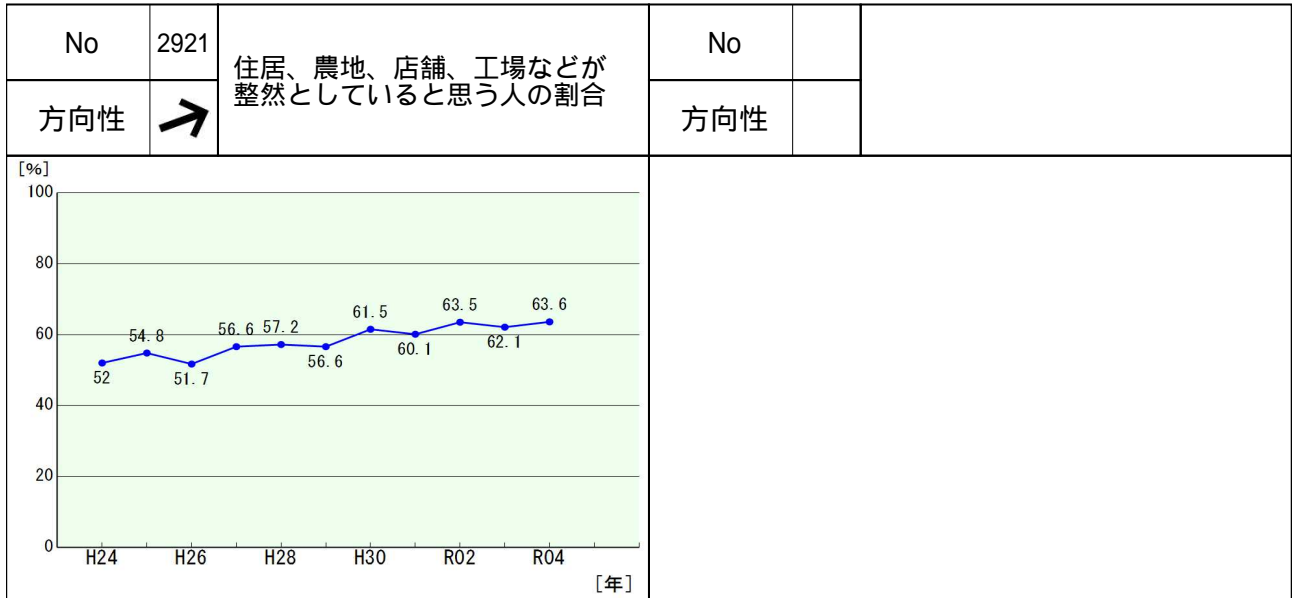
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。  
 太田川駅周辺土地区画整理事業は事業完了に向け順調に進展しており、前年度までに「使用収益開始率」は基準値52.9%から100%に、「道路の整備済み延長の割合」は基準値の67.9%から100%に向上した。「中心市街地エリアの人口」は、宅地整備の完了により住宅建築が活発に行われ、また、良好な住環境などを背景に住宅需要も旺盛であることから、基準値から1,474人、前年度から27人の増加となったものである。  
 今後も、太田川駅周辺土地区画整理事業の完了に向けて、引き続き事業の推進に取り組んでいく。

施策 29 地域の特性を生かした土地利用を推進する  
 単位施策 02 土地を有効活用する

単位施策主管課【都市計画課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

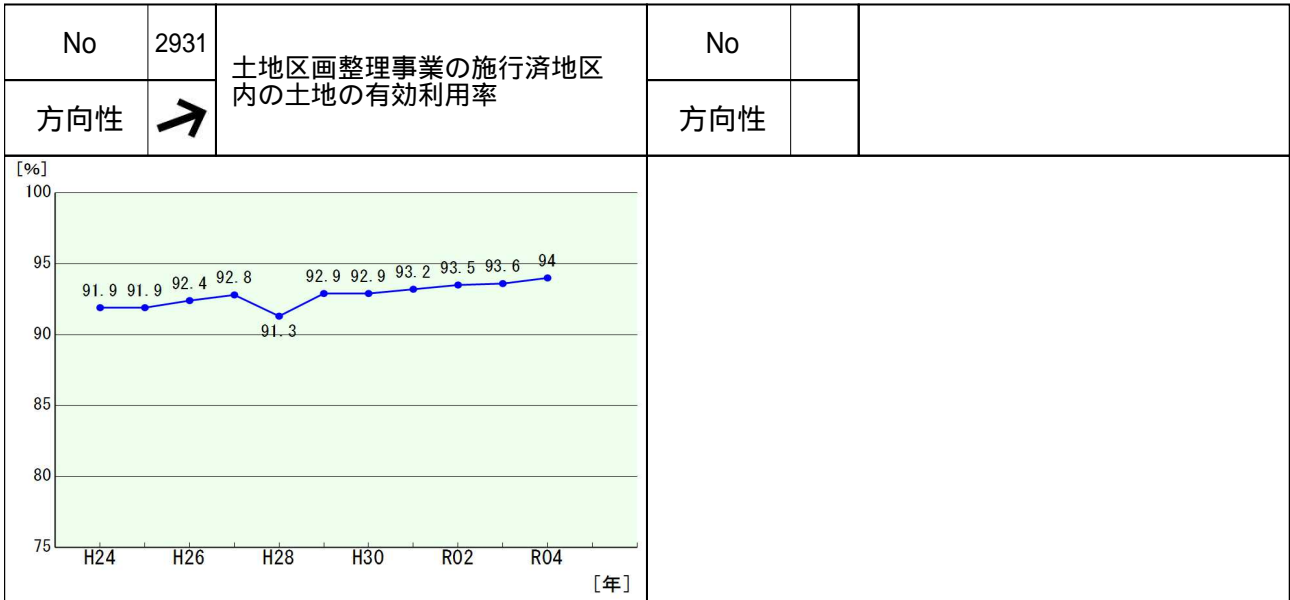
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。  
 成果指標は、基準値から11.6ポイント向上していることから順調と考える。地区別にみると平洲、大田地区が高く土地区画整理事業等を計画的に進めたことが評価されたものとする。  
 今後は、都市計画マスタープラン等の作成にあたり、調整を図りながら地域の特性を生かした調和のとれたまちなみの形成を推進していく。

施策 29 地域の特性を生かした土地利用を推進する  
 単位施策 03 活気のある地区拠点をつくる

単位施策主管課【市街地整備課】

**成果指標の推移**



No		No	
方向性		方向性	

**単位施策の評価**

単位施策の成果動向は、順調と評価する。  
 成果指標は、基準値から2.1ポイント向上しており、その理由としては、土地区画整理事業の施行済地区内において農地から都市的土地利用への転換が図られたことによるものとする。  
 今後は、現在施行中の土地区画整理事業においても、早期に地区全体の都市的土地利用が実現するよう調整を行っていく。

章 05 都市基盤

理念 安心

節 02 道路・交通

施策 30 だれもが安全に安心して通行できる道路をつくる

施策主管課【土木課】

### めざすまちの姿

子ども、高齢者、障害者などが安全に移動できる

### 施策の基本方針（総合計画から抜粋）

だれもが安全に安心して利用できるように、歩行者と自転車を分離した道の整備や地震・火災などの災害時の救命活動などに支障となる狭あい道路の拡幅整備を進めます。  
また、老朽化が進んでいる道路施設の整備や橋りょうの長寿命化、耐震化を進めます。

### 施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	安全な道路環境をつくる	732,451	635,838
02	道路施設の維持修繕や耐震化を進める	395,716	327,631
	施策合計	1,128,167	963,469

### まちづくり指標の分析

No	0041	子ども、高齢者、障害者などが安全に移動できる道路が整備されていると思う人の割合	No																												
方向性	➔		方向性																												
<table border="1"> <caption>まちづくり指標の分析（割合）</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>割合 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>32.9</td></tr> <tr><td>H25</td><td>35.8</td></tr> <tr><td>H26</td><td>33.4</td></tr> <tr><td>H27</td><td>36.4</td></tr> <tr><td>H28</td><td>35.1</td></tr> <tr><td>H29</td><td>37.1</td></tr> <tr><td>H30</td><td>38.7</td></tr> <tr><td>H31</td><td>35</td></tr> <tr><td>H32</td><td>38.5</td></tr> <tr><td>R02</td><td>41.8</td></tr> <tr><td>R03</td><td>40.8</td></tr> <tr><td>R04</td><td>40</td></tr> </tbody> </table>						年	割合 [%]	H24	32.9	H25	35.8	H26	33.4	H27	36.4	H28	35.1	H29	37.1	H30	38.7	H31	35	H32	38.5	R02	41.8	R03	40.8	R04	40
年	割合 [%]																														
H24	32.9																														
H25	35.8																														
H26	33.4																														
H27	36.4																														
H28	35.1																														
H29	37.1																														
H30	38.7																														
H31	35																														
H32	38.5																														
R02	41.8																														
R03	40.8																														
R04	40																														
<p>対基準値：7.7ポイント増 / 基準値からの推移：          10年後めざそう値達成率：108.5%          年齢別：差異有、職業別：差異有、地区別：差異有          要因：都市計画道路名古屋半田線の供用開始や、道路施設の適切な修繕の実施による向上と考える。</p>																															

### めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調と評価する。

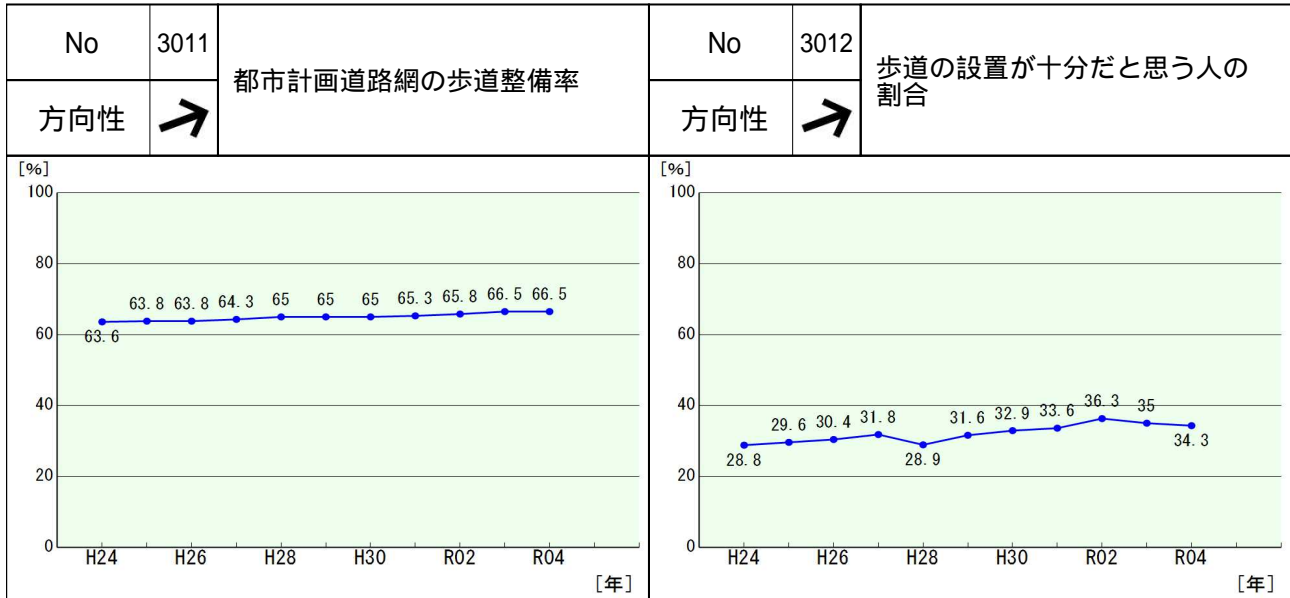
まちづくり指標は前年度より0.2ポイント減少しているものの、10年後めざそう値を達成している。地区別で大田地区のまちづくり指標が基準値を大きく上回っていることは、幹線道路や土地区画整理事業における道路が整備され、また、計画的に維持修繕を実施したことが要因と考える。

今後も引き続き、駅及び公共施設周辺を中心に道路改良を進めるとともに、橋りょう長寿命化等の維持修繕や耐震化を計画的に進めていく。

施策 30 だれもが安全に安心して通行できる道路をつくる  
 単位施策 01 安全な道路環境をつくる

単位施策主管課【土木課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

単位施策の評価

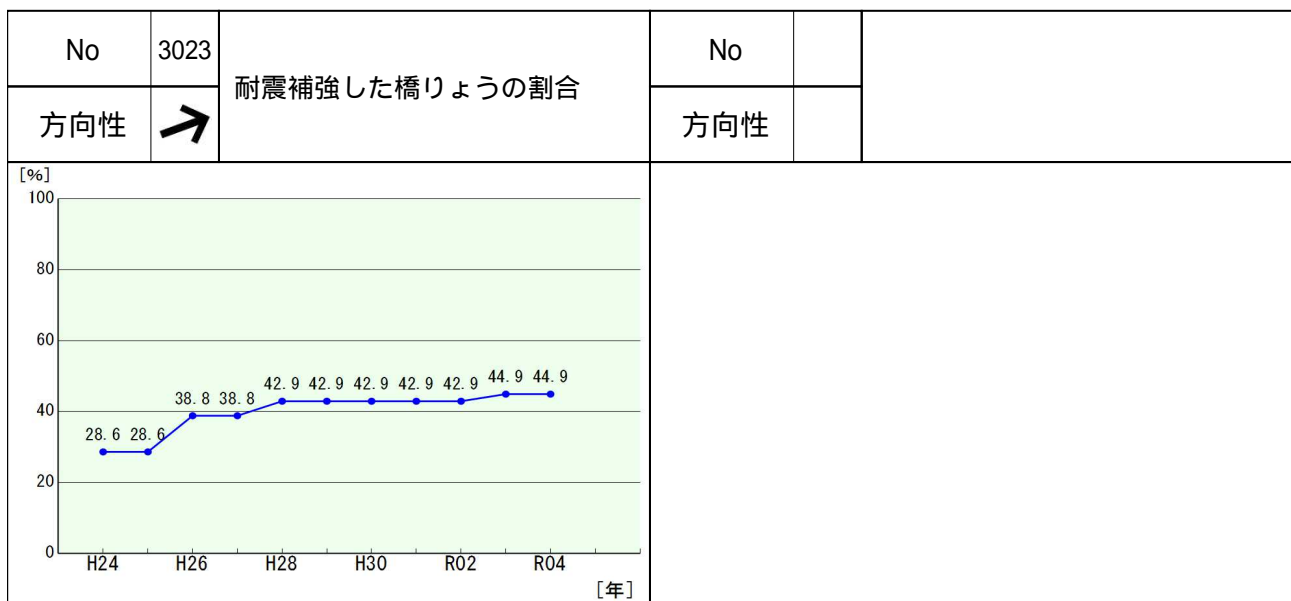
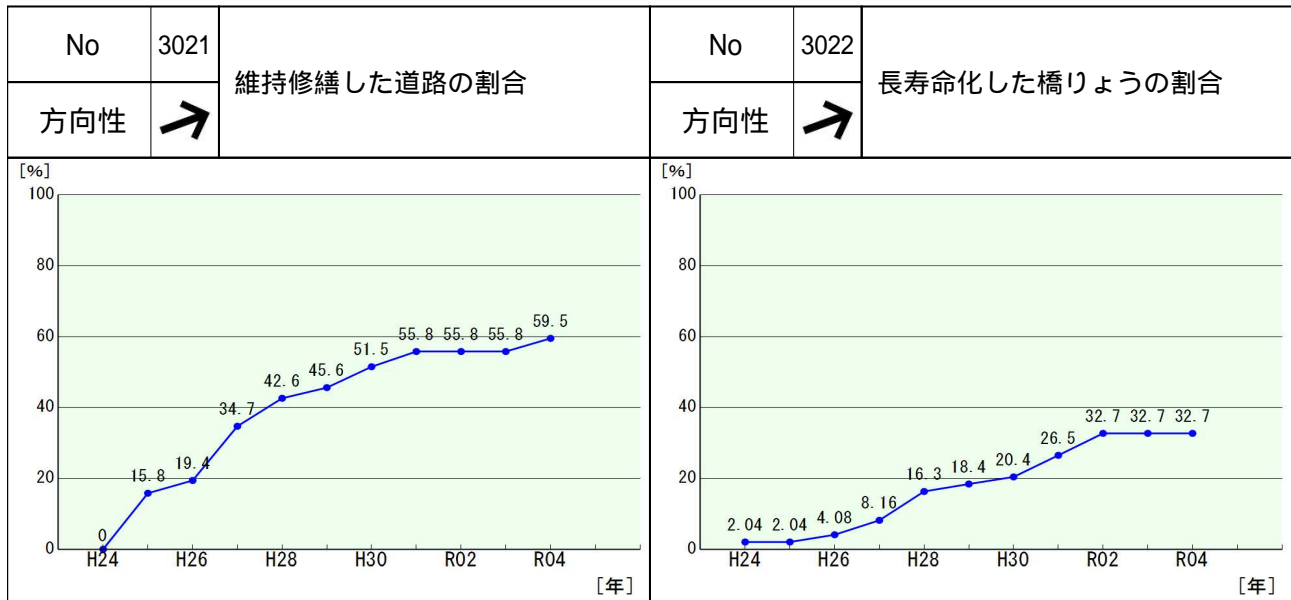
単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。  
 「都市計画道路網の歩道整備率」は、歩道の有する道路の整備が実施されなかったことにより、前年度と比較し、横ばいである。また、「歩道の設置が十分だと思う人の割合」は、前年度と比較し、0.7ポイント減少しているものの、基準値から5.5ポイント増加しており、都市計画道路名古屋半田線の市内全線開通など道路整備が順調に進んでいることや、土地区画整理事業により区画道路等における歩車分離がなされ、安全性が向上したことが要因と考える。  
 今後も引き続き、安全な道路環境の促進を図るため、土地区画整理事業による道路整備や、各道路整備事業を計画的に進めていく。



施策 30 だれもが安全に安心して通行できる道路をつくる  
 単位施策 02 道路施設の維持修繕や耐震化を進める

単位施策主管課【土木課】

成果指標の推移



単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。  
 成果指標は、3指標とも基準値と比べて改善しており、特に「維持修繕した道路の割合」は、前年度から3.7ポイント増加している。これは道路修繕工事を実施したことが要因である。「耐震補強した橋りょうの割合」及び「長寿命化した橋りょうの割合」は前年度から横ばいに推移している。これは効率的に工事を進めるため耐震補強と長寿命化を同時施工するよう計画しているが、指標対象の橋梁修繕が年度内に完了しなかったことが要因である。  
 現在は、幹線道路の車道の舗装修繕を重点的に行っているが、今後は市民に密着した生活道路や幹線道路における歩道の修繕も進めていく。

章 05 都市基盤  
 節 02 道路・交通  
 施策 31 快適に移動がしやすい交通環境をつくる

理念 快適

施策主管課【土木課】

### めざすまちの姿

買い物、通勤、通学などの日常生活の移動がしやすい

### 施策の基本方針（総合計画から抜粋）

だれもが市内を円滑に移動できるよう、幹線道路や鉄道駅などを整備するとともに、らんらんバスをはじめ移動手段の充実を図ります。また、公共施設や駅周辺に駐車場や駐輪場を確保して、混雑の解消に努めます。

### 施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	幹線道路をつくる	4,460,511	2,902,641
02	公共交通機関の利便性を高める	2,954,041	2,069,125
03	自動車・自転車などの駐車スペースを確保する	34,918	34,420
04	市内をわかりやすく案内する	2,000	1,936
施策合計		7,451,470	5,008,122

### まちづくり指標の分析

No	0042	買い物、通勤、通学などの日常生活の移動がしやすいと思う人の割合	No	
方向性	➔		方向性	
<p>対基準値：4.7ポイント増 / 基準値からの推移：          10年後めざそう値達成率：97.9%          年齢別：差異有、職業別：差異有、地区別：差異有          要因：都市計画道路名古屋半田線の全線開通や、公共交通機関の利便性の向上によるものと考える。</p>				

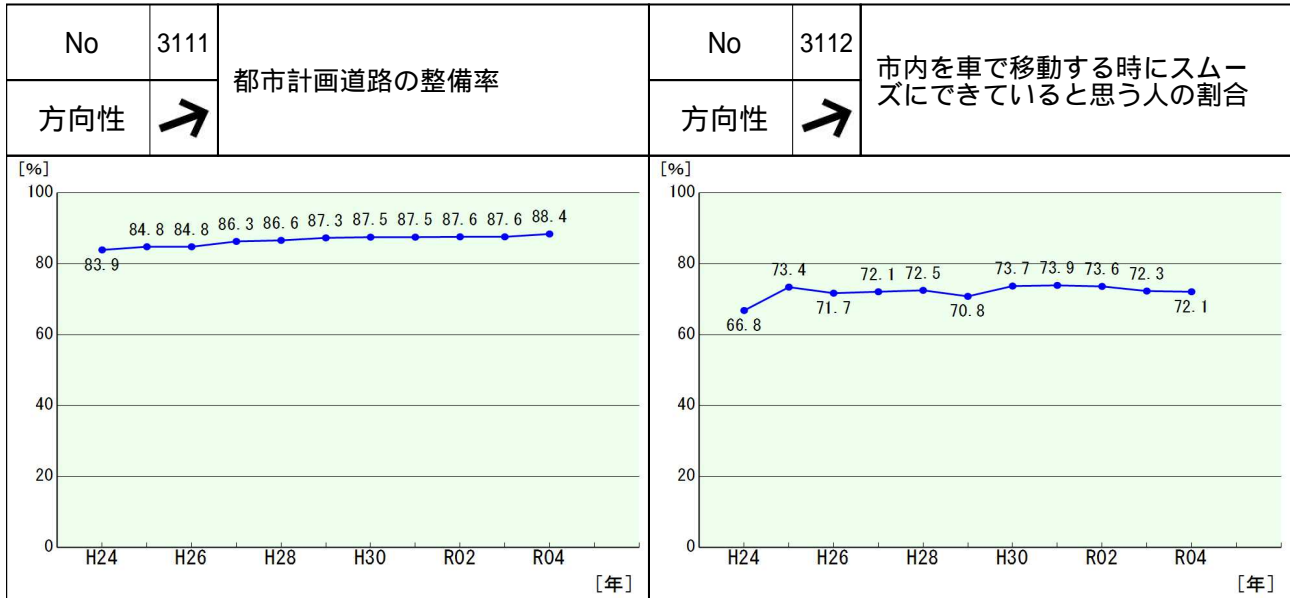
### めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調と評価する。  
 まちづくり指標は、前年度から0.7ポイント減少したが基準値と比較し、4.7ポイント増加した。地区別でみると大田地区が高い数値であることは、土地区画整理事業による道路整備が進んでいることや公共交通機関の利便性が高いことが要因と考える。また、公共交通機関の利用者数は前年度よりも改善されているが、新型コロナウイルス感染症が流行する前の水準には回復していない等の課題が生じている。  
 今後も、幹線道路網の整備を進めるとともに、利用者のニーズにあわせた公共交通の充実に努めていく。

施策 31 快適に移動がしやすい交通環境をつくる  
 単位施策 01 幹線道路をつくる

単位施策主管課【土木課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

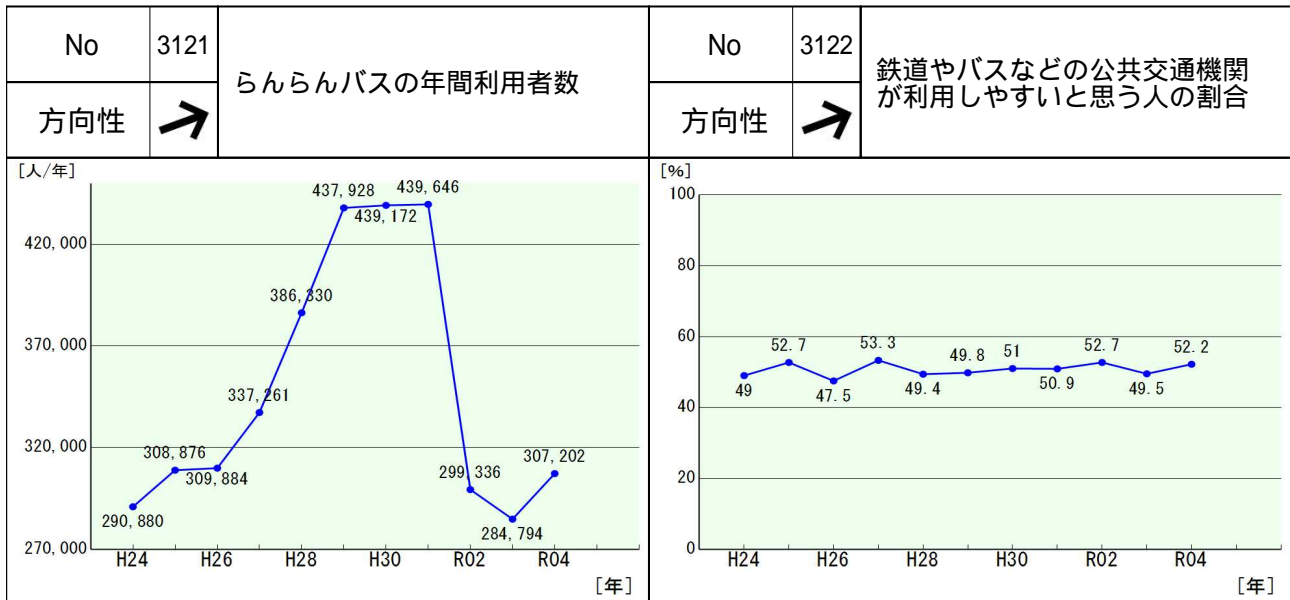
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。  
 「都市計画道路の整備率」は基準値から4.5ポイント増加、「車で移動する時にスムーズにできていると思う人の割合」は基準値から5.3ポイント増加しているが、対前年度では0.3ポイント減少しているため、単位施策全体では横ばいと考える。基準値から増加しているのは、幹線道路や土地区画整理事業における道路が整備され、安全性が向上したことが要因と考える。一方、対前年度から減少しているのは、都市計画道路名古屋半田線の供用開始時期が遅れたことが要因と考える。  
 今後も引き続き、幹線道路整備の促進を図るため、計画的に事業を進めていく。

施策 31 快適に移動がしやすい交通環境をつくる  
 単位施策 02 公共交通機関の利便性を高める

単位施策主管課【交通防犯課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

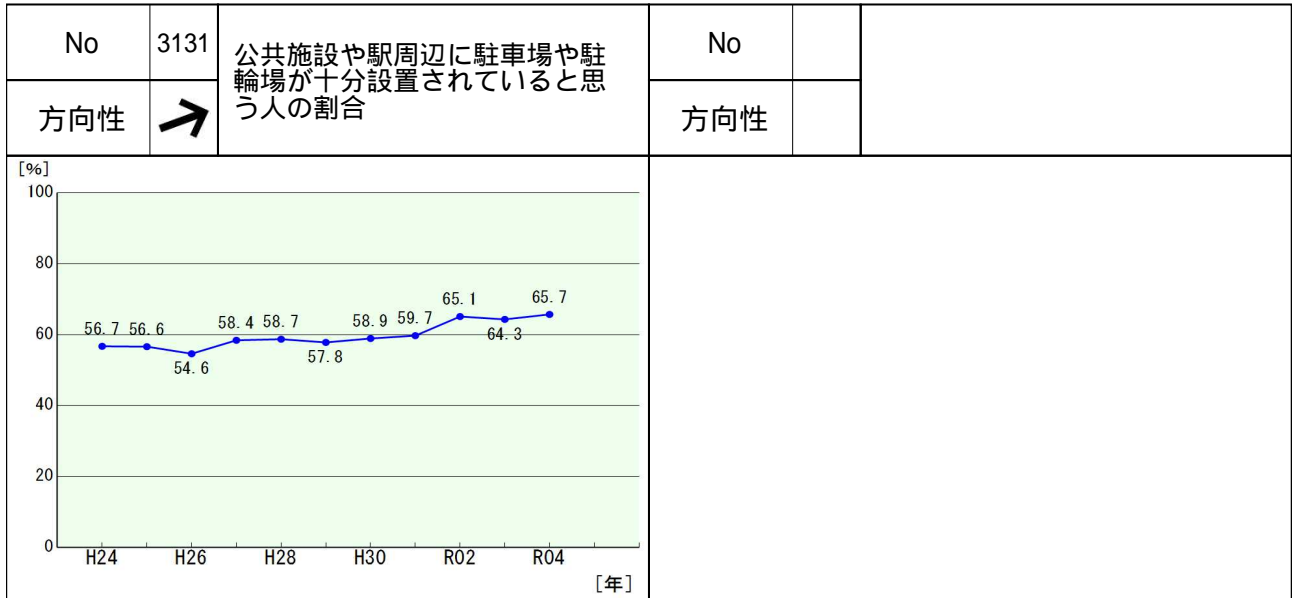
単位施策の成果動向は、順調と評価する。  
 「らんらんバスの年間利用者数」は基準値から16,322人増加、「公共交通機関が利用しやすいと思う人の割合」も基準値から3.2ポイント増加している。コロナ禍において、テレワークの浸透などによる働き方の変化や、手続きのオンライン化などをはじめとするデジタル化が進んでいるが、通勤、通学、買い物、観光等の社会経済活動において、公共交通はなくてはならない移動手段のひとつとして認識されているものと考えます。  
 高齢化や人口減少等社会構造の変化に伴い公共交通に求められるニーズは今後も変化するため、交通事業者と共に地域の交通体系の維持・改善に繋がるような取り組みを継続していく。

施策 31 快適に移動がしやすい交通環境をつくる

単位施策 03 自動車・自転車などの駐車スペースを確保する

単位施策主管課【土木課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

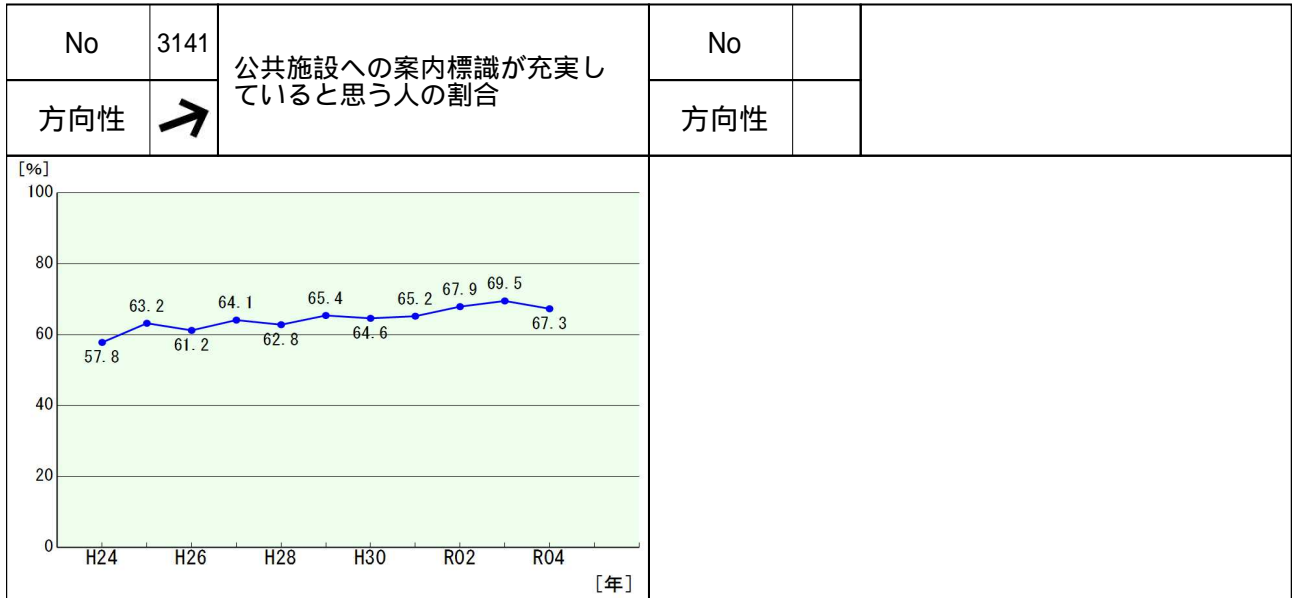
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。  
 成果指標は、前年度と比較し1.4ポイント増加、基準値と比較して9.0ポイント増加している。地区別で、特に大田地区は、基準値と比較し22.2ポイント増加しているのは、太田川駅周辺において駐車場が充実し、各施設利用者の駐車場が十分に確保されたためと考える。また、年齢別では16～19歳、職業別では学生が高い数値であり、自転車等駐車場利用の定着が図られていると考える。  
 今後も地域の実情に応じた施設の必要性や高齢者、障害者等が円滑に利用できる措置も視野に入れながら、駐車スペースの確保について検討を進めていく。

施策 31 快適に移動がしやすい交通環境をつくる  
 単位施策 04 市内をわかりやすく案内する

単位施策主管課【土木課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。  
 成果指標は、前年度と比較し2.2ポイント減少したが、基準値と比較し9.5ポイント増加した。全世代で基準値を上回る結果となったのは、各地区の幹線道路の交差点において、地点名標識を設置したことにより、カーナビ及び携帯地図の音声案内での交差点名や地点名が認識しやすくなったこと等が要因と考える。一方、対前年度から減少しているのは、高齢世代の主なアクセス方法の変化等が要因と考える。  
 今後の幹線道路網の整備に伴い、適切な案内及び誘導が重要になるため、高齢世代にもわかりやすい案内標識の充実に努めていく。

章 05 都市基盤  
 節 03 公園・緑地  
 施策 32 花と緑の豊かなまちなみをつくる

理念 快適

施策主管課【花と緑の推進課】

### めざすまちの姿

まちに花や緑が豊かである

### 施策の基本方針（総合計画から抜粋）

公園や緑地を整備して、魅力あるまちなみにするとともに、緑のネットワーク化を進めます。また、市民などと一体となって、花と緑にあふれたまちづくりを進めます。

### 施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	暮らしのなかを花いっぱいにする	32,427	31,871
02	豊かな緑につつまれたまちにする	10,340	9,072
03	魅力ある公園・街路樹をつくる	1,133,259	1,042,171
施策合計		1,176,026	1,083,114

### まちづくり指標の分析

No	0043	花や緑が充実していると思う人の割合	No															
方向性	➔		方向性															
<table border="1"> <caption>花や緑が充実していると思う人の割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>割合 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>72.7</td></tr> <tr><td>H26</td><td>72.4</td></tr> <tr><td>H28</td><td>74.6</td></tr> <tr><td>H30</td><td>75.1</td></tr> <tr><td>R02</td><td>75.6</td></tr> <tr><td>R04</td><td>78.0</td></tr> </tbody> </table>		年	割合 [%]	H24	72.7	H26	72.4	H28	74.6	H30	75.1	R02	75.6	R04	78.0			
年	割合 [%]																	
H24	72.7																	
H26	72.4																	
H28	74.6																	
H30	75.1																	
R02	75.6																	
R04	78.0																	
対基準値：3.1ポイント増 / 基準値からの推移： 10年後めざそう値達成率：58.5% 年齢別：差異無、職業別：差異無、地区別：差異無 要因：市民との協働により植栽会等の開催や、花苗配布、花壇づくりに積極的に取り組んだことによる。																		

### めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、横ばいと評価する。

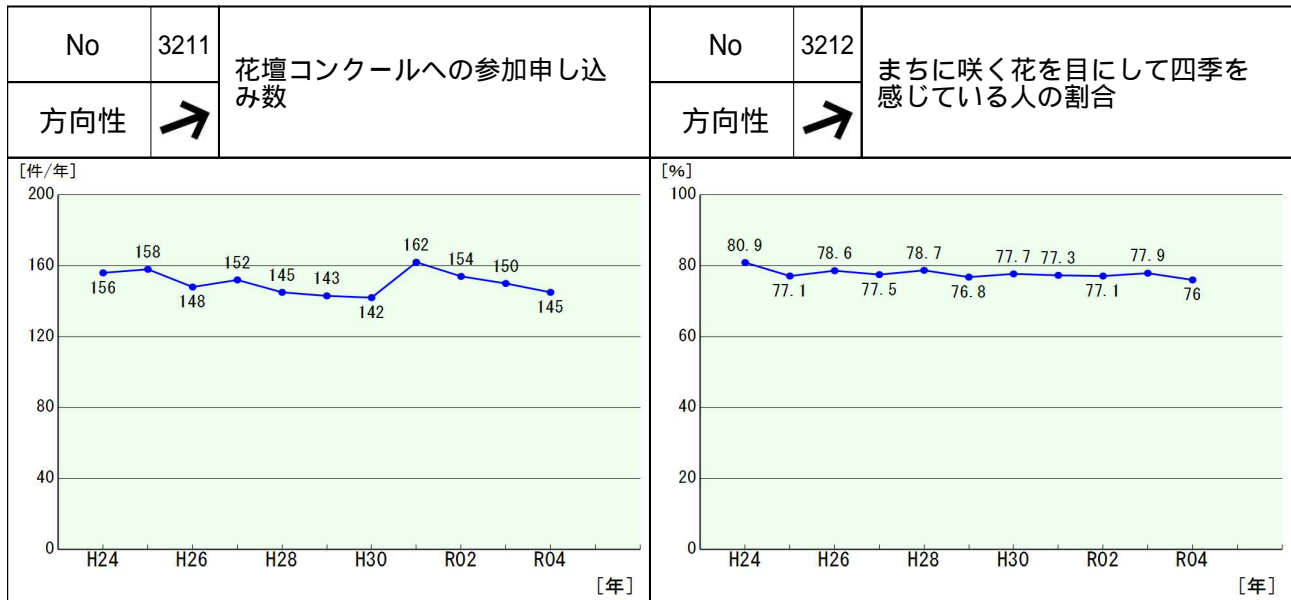
まちづくり指標は、基準値から3.1ポイント改善しているが、推移が横ばい傾向にある。これは、市民との協働により太田川駅東歩道ランの道づくり植栽会や大池公園さくら再生ワークショップを開催したことや、花苗配布や花壇づくりに積極的に取り組んだ一方で、花壇コンクールなど参加申込数が減少しており見直しが必要な事業があることが要因と考える。

今後も引き続き、公園・緑地の適正な維持管理や、市民協働による花いっぱいのまちづくりの推進に努めるとともに、まちなかの生垣や建築物緑化への補助等、宅地の緑化推進施策に積極的に取り組み、次世代に花と緑につつまれたまちを引き継いでいく。

施策 32 花と緑の豊かなまちなみをつくる  
 単位施策 01 暮らしのなかを花いっぱいにする

単位施策主管課【花と緑の推進課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

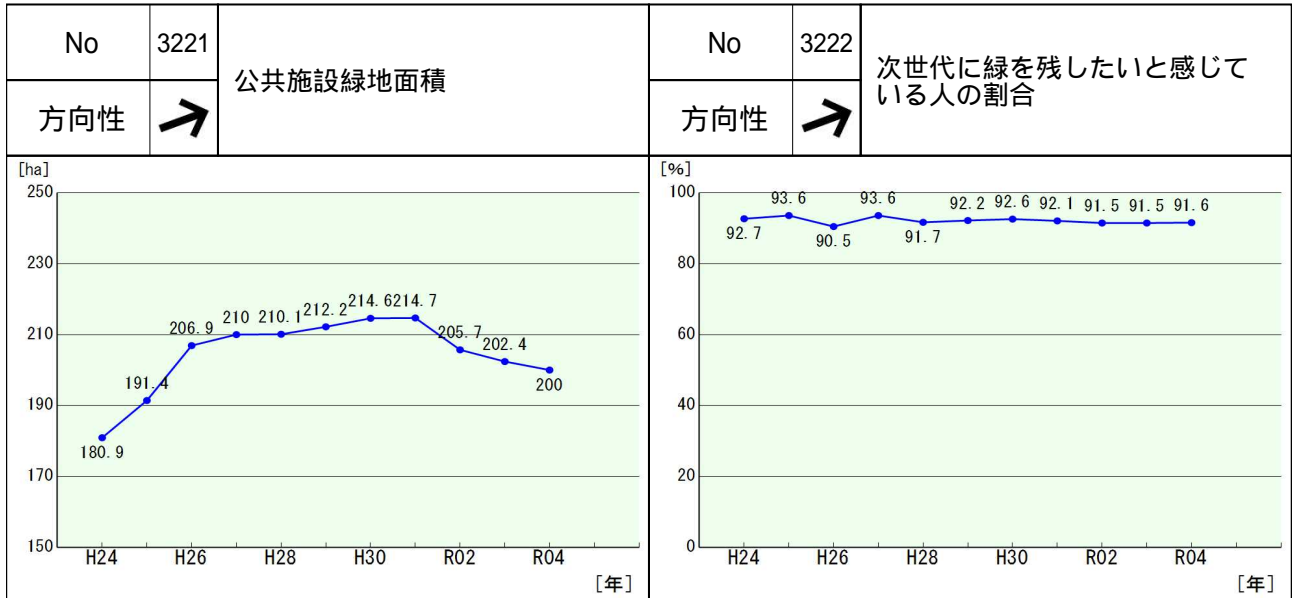
単位施策の成果動向は、順調でないと評価する。  
 「花壇コンクール参加申し込み数」は、基準値から11件減少しており、参加者の高齢化や、市民の花壇コンクールへの参加意欲の低下が要因と考える。「まちに咲く花を目にして四季を感じている人の割合」は、基準値から4.9ポイント低下しており、市民の外出や緑化活動の機会が減ったことが要因と考える。  
 今後は、市民の参加意欲や関心が低い花壇コンクールについては、開催回数の縮小や休廃止など、見直しを検討する必要がある。また、四季を感じられるように、花壇づくりや花苗配布など、市民参加の花のまちづくりを推進する必要がある。



施策 32 花と緑の豊かなまちなみをつくる  
 単位施策 02 豊かな緑につつまれたまちにする

単位施策主管課【花と緑の推進課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

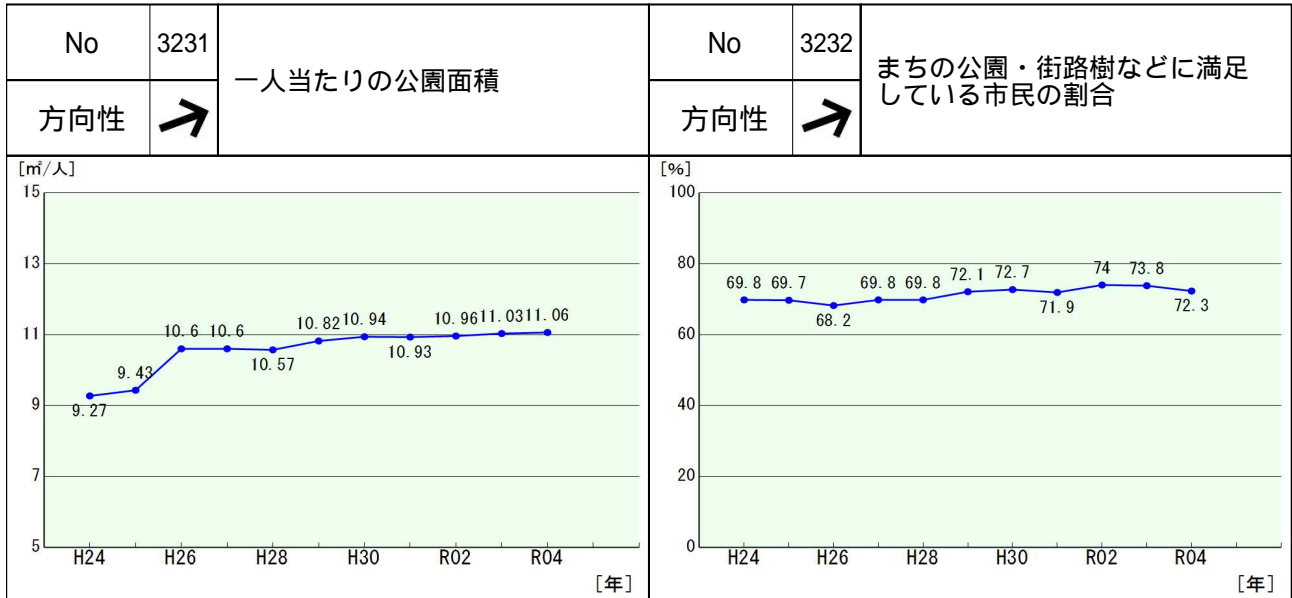
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。  
 「公共施設緑地面積」は、基準値から19.1ha増加しているものの、西知多道路整備や民間開発によって、前年度より2.4ha減少している。また、「次世代に緑を残したい人の割合」は、基準値を1.1ポイント下回っているが、前年度より0.1ポイント向上し、高い水準で推移している。その理由としては、公園緑地整備や民有地緑化の推進を実施してきたことが要因と考える。今後も引き続き、公園緑地の適正な維持管理や整備を実施するとともに、民有地緑化の推進や自然環境の保全に取り組んでいく必要がある。

施策 32 花と緑の豊かなまちなみをつくる  
 単位施策 03 魅力ある公園・街路樹をつくる

単位施策主管課【花と緑の推進課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。  
 「一人当たりの公園面積」は、基準値から増加しており、計画的な公園整備を進めてきたことが要因であるとする。「まちの公園・街路樹などに満足している市民の割合」は前年度から2.0ポイント低下してはいるものの、基準値を上回っており、適切な維持管理をしてきたことが要因とする。  
 今後も引き続き、誰もが安全・安心、快適に利用できるよう、公園などの適切な維持管理と計画的な整備に取り組んでいく。

章 05 都市基盤  
 節 04 河川  
 施策 33 浸水被害がない地域にする

理念 安心

施策主管課【土木課】

### めざすまちの姿

浸水被害に不安がなく、だれもが安心して生活している

### 施策の基本方針（総合計画から抜粋）

5年に1回の確率で降る大雨（5年確率降雨）に対応できるよう、河川や下水道の整備を進めます。  
 また、近年の地球温暖化やヒートアイランド現象の影響で、突発的・局地的に発生する集中豪雨に対応するため、大田川流域における「100mm/h安心プラン」をはじめとした計画に基づき、適切な浸水対策を進めます。

### 施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	計画的な雨水処理を行う	1,207,483	1,137,993
02	浸水対策を推進する	237,290	236,218
施策合計		1,444,773	1,374,211

### まちづくり指標の分析

No	0044	大雨に対する安全性が高いと思う人の割合	No	
方向性	➔		方向性	

年	割合 (%)
H24	49.7
H26	50.4
H28	51.9
H30	53.1
R02	55.2
R04	58.0

対基準値:6.2ポイント増 / 基準値からの推移:  
 10年後めざそう値達成率:74.7%  
 年齢別:差異有、職業別:差異有、地域別:差異有  
 要因:調整池の整備等により浸水被害の低減に繋がりを改善したと想定。地盤の高い地域の割合が高い。

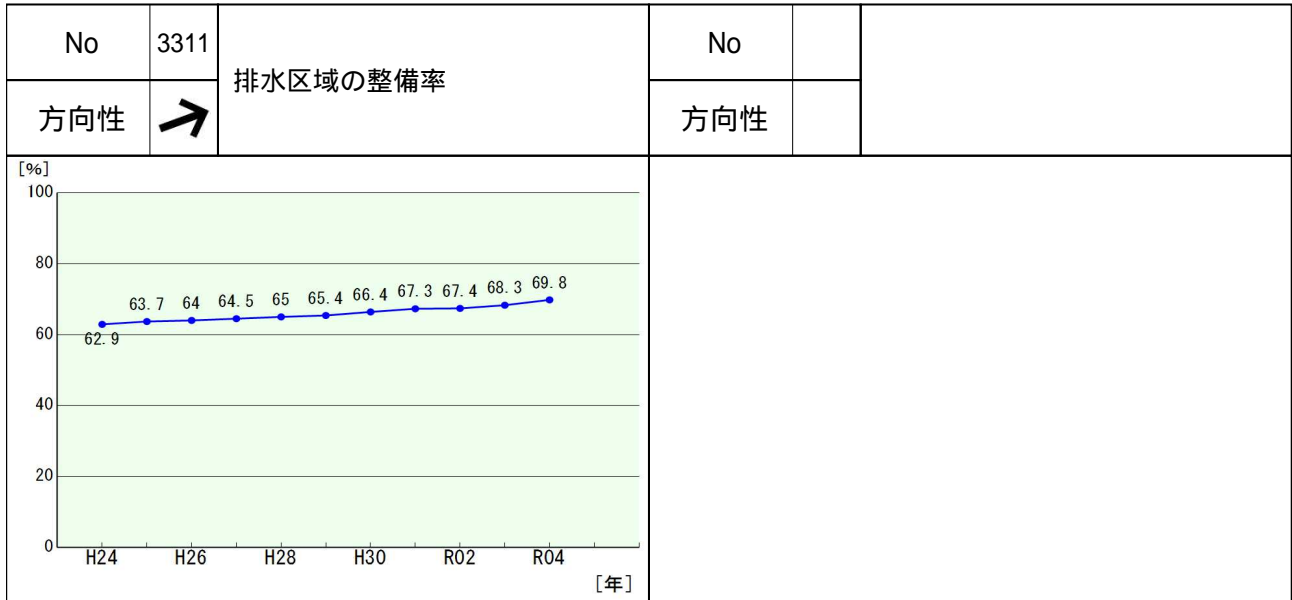
### めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調と評価する。  
 まちづくり指標は、基準値から6.2ポイント増加している。調整池の整備やため池管理者の協力のもとため池を一時貯留施設として活用でき、浸水被害の低減に繋がったことが指標改善の要因と考える。  
 今後は、100mm/h安心プランに基づく手作りハザードマップの作成や水防訓練への参加等、ソフト対策を充実させ、地域の防災意識の高揚を図り、大雨に対する安全性を高める取り組みを進めていく。

施策 33 浸水被害がない地域にする  
 単位施策 01 計画的な雨水処理を行う

単位施策主管課【土木課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

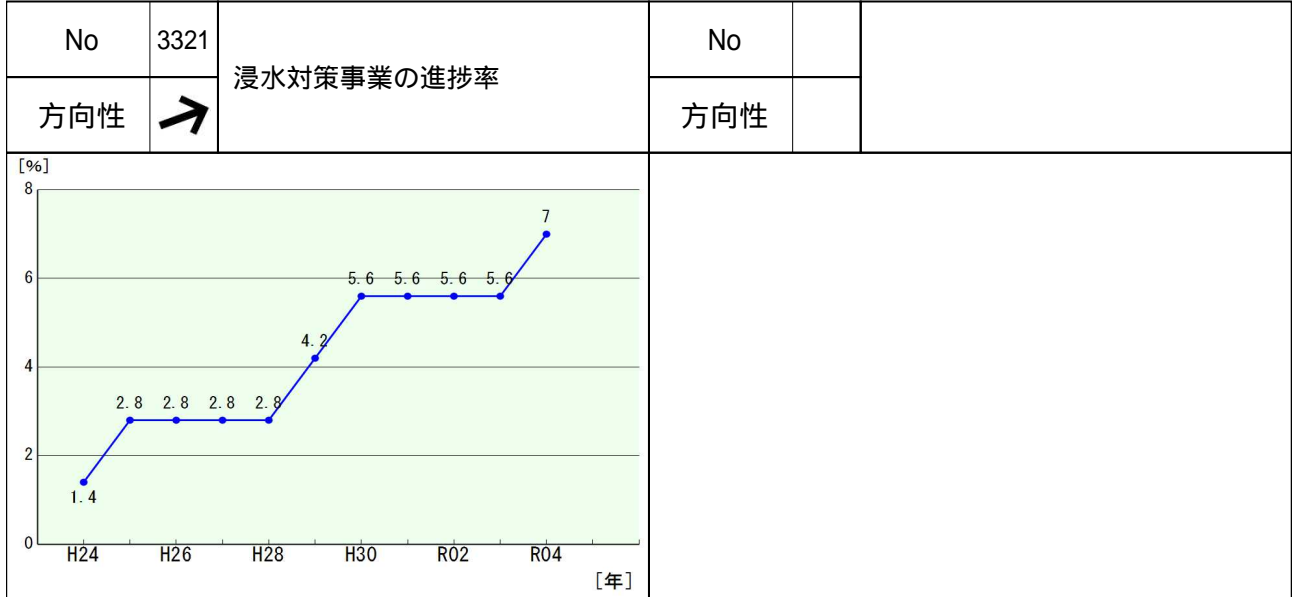
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。  
 成果指標は、基準値から6.9ポイント向上している。これは、名和地区の下水道面整備工事が完了し、計画的に雨水幹線等の整備を進めたことが要因と考える。  
 今後も引き続き、雨水幹線の整備と老朽化の進む雨水ポンプ場において、適切な整備と維持管理により計画的な雨水処理を行い、安心なまちづくりに取り組んでいく。

施策 33 浸水被害がない地域にする  
 単位施策 02 浸水対策を推進する

単位施策主管課【土木課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。  
 成果指標は、基準値から5.6ポイント向上しており、姫島公園調整池を始め、4か所の調整池整備が完了したことに加え、令和3年度から進めている木之下調整池の整備が完了したことや大雨時のため池の水位調整が機能していることが要因と考える。  
 今後は100mm/h安心プランに基づく、水防活動の強化や大田川流域対策協議会の活動などのソフト対策により、地域の防災意識の高揚を図っていく。

章 05 都市基盤  
 節 05 まちなみ  
 施策 34 良好な都市景観と快適な住環境をつくる

理念 快適

施策主管課【建築住宅課】

### めざすまちの姿

良好な景観が保たれ、快適に暮らせる環境が整っている

### 施策の基本方針（総合計画から抜粋）

良好な都市景観づくりと風致を維持することで、住環境の質的向上に努めます。また、公営住宅を適切に整備し、市民の安定した居住を確保します。

### 施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	景観に配慮した公共空間の整備を進める	949	908
02	快適な住環境をつくる	958,173	957,054
施策合計		959,122	957,962

### まちづくり指標の分析

No	0045	良好な景観が保全され、快適な住環境が整っていると思う人の割合	No																
方向性	➔		方向性																
<table border="1"> <caption>まちづくり指標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>割合 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>51.9</td></tr> <tr><td>H26</td><td>50.9</td></tr> <tr><td>H28</td><td>53.6</td></tr> <tr><td>H30</td><td>56.0</td></tr> <tr><td>R02</td><td>59.4</td></tr> <tr><td>R04</td><td>60.0</td></tr> </tbody> </table>			年	割合 [%]	H24	51.9	H26	50.9	H28	53.6	H30	56.0	R02	59.4	R04	60.0			
年	割合 [%]																		
H24	51.9																		
H26	50.9																		
H28	53.6																		
H30	56.0																		
R02	59.4																		
R04	60.0																		
<p>対基準値：8.1ポイント増 / 基準値からの推移：          10年後めざそう値達成率：100.0%          年齢別：差異有、職業別：差異有、地区別：差異有          要因：学生や会社員などの通学・通勤での公共交通機関の利用が多い世代、職業において割合が高い。</p>																			

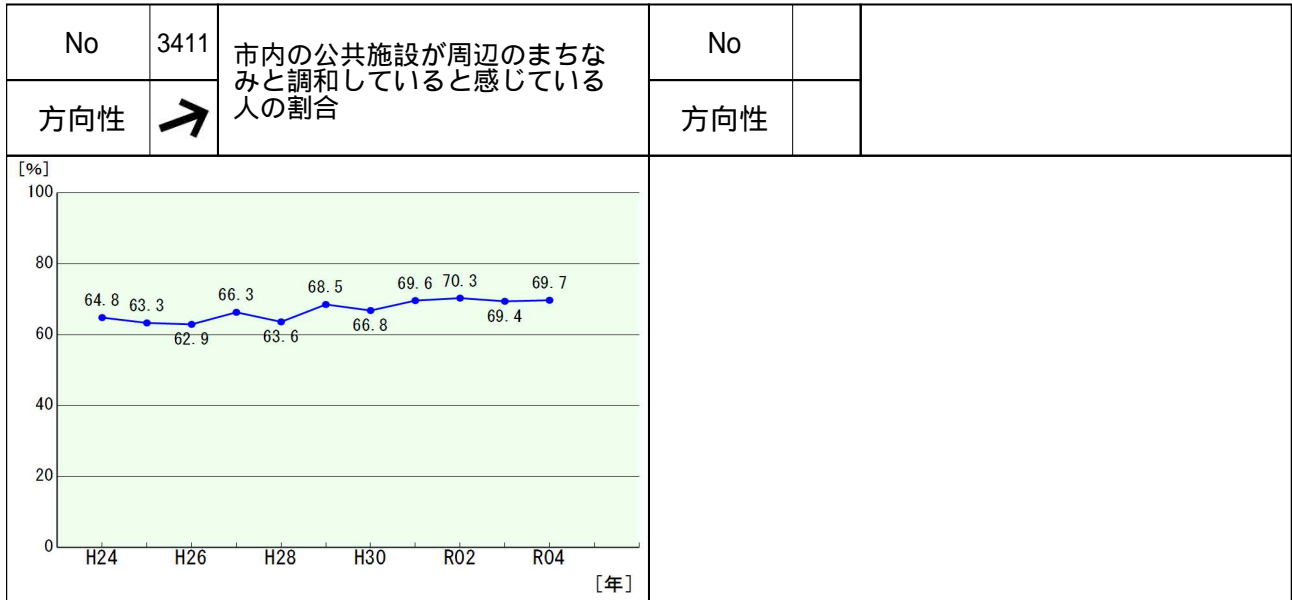
### めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調と評価する。  
 まちづくり指標は、前年度から0.8ポイント減少しているものの、基準値からは8.1ポイント増加し、10年後めざそう値を達成している。また、単位施策でも全成果指標が基準値を上回っている。これは、太田川駅周辺や尾張横須賀駅西周辺の景観に配慮した整備やまちづくりが進んだ結果と考える。  
 今後も、駅周辺の景観に配慮したまちづくりやアダプトプログラム事業をはじめとした地域美化活動、市営住宅の適切な整備を実施し、快適な住環境整備を進めていく。

施策 34 良好な都市景観と快適な住環境をつくる  
 単位施策 01 景観に配慮した公共空間の整備を進める

単位施策主管課【都市計画課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

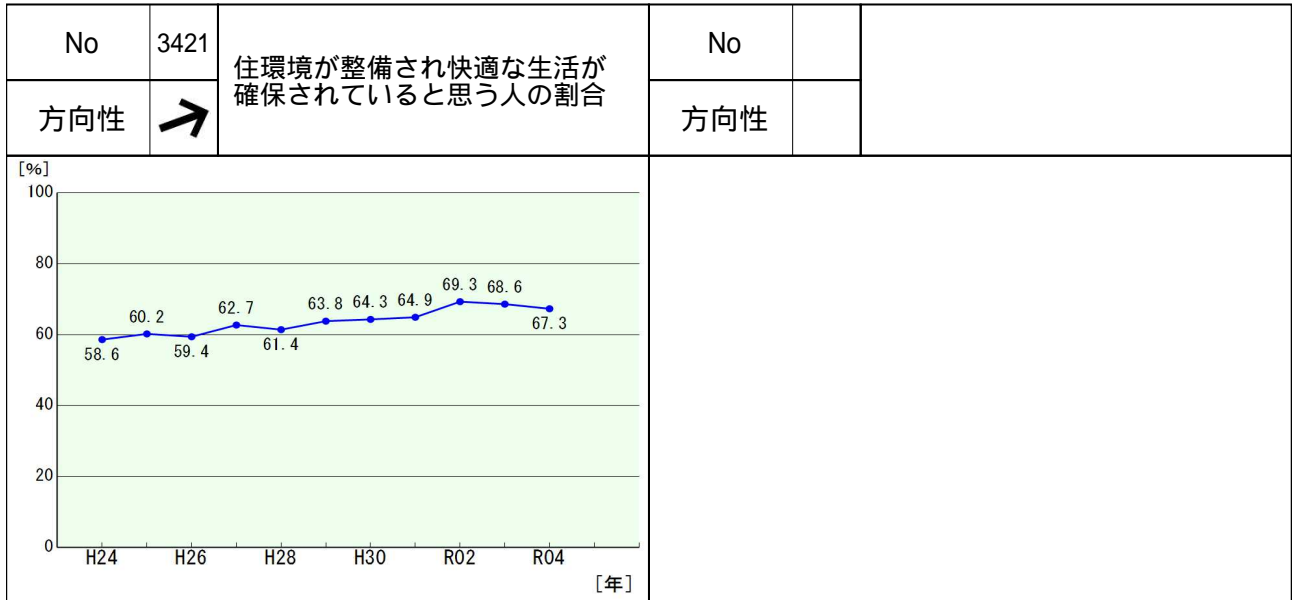
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。  
 成果指標は、基準値から4.9ポイント向上していることから、順調と考える。年齢別では、学生を中心に若年層が増加しており、通勤、通学で多く利用する駅を中心としたまちづくりが評価されているものと考えられる。  
 今後は、多世代にも受け入れられるよう、横須賀駅西周辺地区における景観に関する取り組みをはじめとした、地域の特性を生かして生活のにぎわいづくりに取り組むなど、市民とともに調和のとれたまちなみづくりを進めていく。

施策 34 良好な都市景観と快適な住環境をつくる  
 単位施策 02 快適な住環境をつくる

単位施策主管課【建築住宅課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。  
 成果指標は、前年度から1.3ポイント減少しているものの、基準値からは8.7ポイント増加している。地区別では、大田地区が高い割合で推移しており、これは太田川駅を中心とした住環境の整備が進んだ結果と考える。  
 今後も、アダプトプログラム事業の継続や、害虫駆除等の生活環境を向上すること及び空き家対策の推進や公営住宅の適切な整備を実施し、快適な住環境の形成を進めていく。